

第 17 回 REIC 防災セミナー 開催報告

日時：平成 27 年 12 月 4 日 13:45~17:45

会場：浅草公会堂 第 1 集会室

第 17 回 REIC 防災セミナーを 12 月 4 日（金）に、浅草公会堂にて開催いたしました。今回は、拡大版セミナーと題し、特定非営利活動法人日本防災士会と国立研究開発法人防災科学技術研究所の後援を受け、3 名の講師をお招きして開催しました。

1. 「地域における防災研究成果の利活用について」

講師：三浦 伸也 氏（防災科学技術研究所 社会防災システム研究領域 災害リスク研究ユニット 主任研究員）

防災科学技術研究所では、統合化地域防災実践支援 WEB サービスにより、地域の防災・減災対策への研究成果の活用を促進し、研究と実践の橋渡しを行っています。その概要について具体例を交えてご紹介いただきました。

先の関東・東北豪雨災害においては、調査速報の発信や各種災害情報を網羅的に集約・整理するサイトを構築しました。常総市災害対策本部に職員を送り込んで、ライフライン・生活支援に関する情報などをサイト上の地図に集約し、Web 上で情報を共有するほか、出来上がった地図を印刷して避難所や庁舎に掲示しました。また災害ボランティアセンターでは、住民ニーズやボランティア受付などもデータ化し、いつでも誰でも確認・印刷することができたそうです。この様に、情報を利用する側が情報を統合し、共有できるツールとして「e コミュニティ・プラットフォーム」をご紹介いただきました。



現在、統合化地域防災実践支援 WEB サービスは、対象地域の各大学と連携して、各種災害の研究成果をユーザー目線で届けられるよう構成されています。本セミナーでは、千葉県流山市を例にご紹介いただきました。Web 上で、流山市の社会特性や災害の危険性などが、わかりやすく情報収集できるようになっていました。

今後は、研究者とユーザーの相互運用を進めたり、「防災コンテスト」のような参加型イベントにおいて活用普及を行ったりすることで、研究成果を地域防災に生かしていくことを目指していくそうです。

2. 「都市を揺する」

講師：市村 強 氏（東京大学 地震研究所 巨大地震津波災害予測センター 准教授）

本セミナーでは、都市の地震シミュレーションについてご紹介いただきました。



ここでご紹介いただいた最新のシミュレーションは、スーパーコンピュータ「京」を用いて計算されたものです。その「京」についても、詳しくご紹介いただきました。大規模計算において「京」を使いこなすことは容易ではなく、様々な問題を苦労しながら対処されていたご経験を、ユーモアを交えてお話いただきました。

この「京」によって計算された最新のシミュレーション“断層-都市-避難解析”をご紹介いただきました。

JR 山手線内規模の都市を対象に、断層から地震動の計算を行い、さらに人間の行動特徴などをインプットして、地震が発生した際にどのように人が行動するか、200万人規模の避難解析を行いました。この、断層から地表までの地震動の計算と、避難行動のシミュレーションは、「京」ならではの大規模解析だそうです。

次に、三次元地盤振動解析についてご紹介いただきました。東北地方のある不整形地盤での地震動分布やひずみ分布を、実際のシミュレーション画像を見ながら解説いただきました。さらに地殻の状態推定を高度化し、震源シナリオを高度化するため、従来の手法と最新のモデルの評価をご紹介いただきました。

今後は、ポスト「京」にて、更なる進展が期待されるそうです。また、ここで開発された最新の技術が、あらたな展開を見出すことを検討されているそうです。

3. 「東京都の防災プラン ～世界一安全・安心な都市を目指して～」

講師：森永 健二 氏（東京都 総務局 総合防災部 事業調整担当課長）

まず、本セミナーでご講演いただいた森永氏ご自身が体験した「阪神淡路大震災」における当時の状況をご紹介いただきました。とくに印象深かったのが、当時水道局に所属されていた森永氏が、発災後神戸市に駆けつけたところ、市庁舎が大きく破損しており、その破損した箇所が神戸市水道局であったため、水道管の図面などの取出しに影響があったそうです。公共施設の耐震化の重要性が痛感できたお話でした。

東京都が防災対策を考えるにあたり、首都が持つ特性を理解する必要があります。人口が集中していること（首都圏人口は世界1位！）、政治や経済の中核機能が集中していることはもちろん、多くの木造密集地域があることや地盤の弱い地域があることも視野に入れる必要があります。その様な特性の中で、起こりうる多くの被害の様相を確認する必要があります。



この数多くの被害想定に対して、東京都の取組みは非常に多岐に渡っています。先の事例にもあった建物の耐震化はもちろん、出火・延焼の抑制、安全で迅速な非難の実現、帰宅困難者の対応や早期の生活再建など、それぞれの担当部門による取組みを紹介いただきました。

最後に、実際の体験談として、東日本大震災において業務派遣された女性職員のお話をご紹介いただきました。当時、都税事務所に配属していた彼女は、4月中旬頃から石巻市に派遣されたそうです。現地での生活は想像以上に厳しいものだったそうです。この派遣を終えてからも、彼女は被災地に想いを寄せつづけ、災害対応への意識啓蒙の必要性や復興の大変さを痛感し、自ら総合防災部への配属を希望されたそうです。そして現在、その想いを胸に、都民の安全の為に総合防災部で頑張っているそうです。

最後に、本セミナー開催にあたりまして、後援ならびに多大なご協力をいただきました、特定非営利活動法人日本防災士会ならびに国立研究開発法人防災科学技術研究所に深く感謝申し上げます。

